

希少種ミヤコタナゴから^{いのち}生命のにぎわいを考える

～ミヤコタナゴの減少要因をさぐり、生息地の復元と維持管理をどのように行うか～

会場

御宿町公民館 大ホール

千葉県夷隅郡御宿町久保 2200

入場無料 定員 200 名 (当日受付)

平成 26 年

11/8

(土)

10 時～16 時 20 分

(受付 9 時 30 分～)

ミヤコタナゴという魚をご存じですか？



そして、

この美しい『水路の宝石』が絶滅の危機に瀕していることを

望月 賢二 氏 (元千葉県立中央博物館 副館長)

石鍋 壽寛 氏 (公益社団法人 観音崎自然博物館 館長)

御宿町ミヤコタナゴ保存会

栃木県環境森林部自然環境課 (予定)

西尾 正輝 氏 (富山県氷見市教育委員会 主任学芸員)

根岸 淳二郎 氏 (北海道大学 大学院環境科学院 准教授)

森 誠一 氏 (岐阜経済大学 教授)



話題提供者

生物多様性に支えられた「^{いのち}小さな生命の未来」について、
いっしょに考えてみませんか？

お問い合わせ先 御宿町役場 建設環境課 環境整備班

電話 0470-68-6694 / FAX 0470-68-7183 電子メール kankyoutown-onjyuku.jp

主催 御宿町・千葉県・環境省 後援 千葉県教育委員会・栃木県 (予定)・日本魚類学会



はじめに

ミヤコタナゴが文化財保護法により『天然記念物』に指定されてから40年、種の保存法により『国内希少野生動物種』に指定されてから20年が経過し、ミヤコタナゴの保全に向けた取組が進められてきました。

しかしながら、ミヤコタナゴを取り巻く環境は現在も厳しい状態であり、予断を許せる状況ではありません。

本シンポジウムでは、『ミヤコタナゴを将来にわたって守っていく』ために、その生態と保全の取組を紹介します。

そして、ミヤコタナゴの生息する自然豊かな里山とその生物多様性を守り、『様々な人々が集う、にぎわいのある農村地域を復活させる』ために、参加者の皆さんとその将来像を描きます。

生物多様性に支えられた小さな生命の未来について、一緒に考えてみませんか。

プログラム



10:00 開会

【第一部】 基調講演 ミヤコタナゴの研究者からのメッセージ：『ミヤコタナゴとその保全』

10:20～11:10 ミヤコタナゴとイシガイ類の人工増殖と生息地の保全及び復元の取組み
～ミヤコタナゴ生息地の地域市民によるミヤコタナゴとの関わり方

石鍋 壽寛 氏（公益社団法人 観音崎自然博物館 館長）

11:20～12:00 ミヤコタナゴ本来の生息環境推定と維持管理可能な生息環境の創造、
それを支える技術

望月 賢二 氏（元 千葉県立中央博物館 副館長）

12:00～13:00 <昼休憩>

【第二部】 生息地域の保全団体からのメッセージ：『地域で何が出来るか』

13:00～13:10 御宿町におけるミヤコタナゴの生息環境の保全にむけた取組み
御宿町ミヤコタナゴ保存会

13:10～13:25 栃木県におけるミヤコタナゴの保全に向けた地域との協働について
栃木県環境森林部自然環境課（予定）

【第三部】 全国の研究者からのメッセージ：『タナゴ類を守るために何が出来るか』

13:25～13:55 イタセンパラ再生へのプロセスとその可能性～氷見市を中心に
西尾 正輝 氏（富山県氷見市教育委員会 主任学芸員）

13:55～14:25 イシガイ類の生息環境と再生の可能性：産卵母貝からタナゴを守る！
根岸 淳二郎 氏（北海道大学 大学院環境科学院 准教授）

14:25～14:55 どうやって守っていくか？何をを目指すのか？
～生き物のざわめく自然を求めて
森 誠一 氏（岐阜経済大学 教授）

【第四部】 パネルディスカッション：『ミヤコタナゴを守るためにすべきことは何か』

（閉会 16:20）

会場



電車でお越しの方

JR 東京駅 / 千葉駅から外房線（下り）安房鴨川方面行き列車で『御宿駅』下車後、徒歩 5 分

車でお越しの方

千葉市・茂原市方面からお越しの方

国道 128 号線を勝浦市方面に直進、『御宿駅入口』の交差点を右折後約 1 分

勝浦市方面からお越しの方

国道 128 号線を茂原市方面に直進、『御宿駅入口』の交差点を左折後約 1 分